報徳@なう
発行人：本岡俊郎

お惣菜提供の立役者　小野由紀江さん

十一月十三日(日)に箱根町仙石原に住む高齢者の皆さん80人が参加された「ふれあい交流会」が仙石原地区社会福祉協議会の主催で催されました。その会場では報徳食品支援センターからもお惣菜を配りました。お握りセットと白菜と豚肉のあんかけ煮、大根とベーコンの炒め物そして、もやしの鶏皮ポン酢、その数三百個。

このお惣菜を準備したのが平塚市の小野由紀江さんです。このお惣菜一個100円でお願いしました。

小野さんは、平塚市内の県営横内団地の近くでひまわり食堂を営んで、子ども食堂の他、団地に住む高齢者の方達にお弁当やお惣菜を販売されています。横内団地は築40年以上で居住者は高齢化しており、また家賃も安いので外国人も多くなってきているようです。貧困層が多い中で小野さん個人の活動は地域で感謝されています。その腕を見込んで、今回、お願いしました。彼女は、とにかく料理するのが大好きで喜んで引き受けていただきました。





小野さん

主な材料は、報徳食品支援センターが入手した冷凍食材です。物価高騰で生活が苦しくなってきた高齢者の方達にこのお惣菜提供を彼女の協力を得て続けて行きたいと思います。

卒業論文

SDGsが世間の常識になり、また生活困窮者救済という観点もあり、フードバンクの活動も広く知られるようになったせいでしょうか、毎年この時期になると、各地の大学生から卒業論文を書くためのアンケートがメールで送られてきます。「もし、フードバンクの現場に来てくれれば、時間をとって丁寧に教えます。」という返事を書きます。

その返信に応じて、今年は二つの大学、東京農業大学と明治学院大学の女子学生が報徳食品支援センターに来られました。現場を見るだけでも大きな収穫があるようで、その内のひとりはすでに二回やって来ました。学生生活の締めくくりに良い卒論が書けたらいいなと思います。

全国のフードバンクに質問を送って、実地をみることなく、返信だけをまとめて卒業論文を書こうとしている学生もいます。このようなお手軽なやり方で本当のフードバンクの実情が理解できるとは思えないし、またいい論文が書けるとは思えません。また、努力しないで、結果を得ようとする態度もどうかと思われます。ということで、多忙の中でこのようなアンケートだけの依頼はご遠慮いただきたいと思います。

本岡当センター理事長　食品ロス削減推進表彰を受ける。

本岡当センター理事長が環境省と消費者庁が主催する食品ロス削減推進表彰で審査委員長賞を受賞し、この10月30日に表彰式がありました。受賞内容は「食品提供企業の開拓と提供の仕組構築(二〇〇九年以来取り組んできた実績)」です。以下本人からの感想です。

「フードバンク活動に取り組んで十三年が過ぎて七十五歳となった今、これまでの活動を振り返りたいと思ったのが表彰に応募した動機です。食品メーカーで働いた事もあり、食品ロスの削減に強い関心を持って取り組んできたので、その成果を書きました。結果は審査委員長賞でした。しかし、他の受賞者は企業や学校等の団体ばかりで個人で応募したのは私一人、推薦無しの自薦でしたので結果に満足しています。これからも良い食品を開拓して食品ロスを減らすと共に、もらっていただける方に喜んでいただく努力を続けます。また、多くの方たちがフードバンクに理解を持っていただいて、活動に参画していただけると幸いです。」



審査委員長と本岡理事長



本岡理事長には、これからも一層頑張っていただきたいと思います。

報徳食品支援センター　〒250-0212 小田原市西大友136－1　℡0/0-1432-9559　houtoku.foodbank@gmail.com

泣き面に蜂また蜂

コロナ禍に加え「値上げ」



年末が迫ってきました。第七波の新型コロナが秋に向かって沈静化して、ほっと一息付けて、いろいろ行動を開始し、多くの人が外食や旅行に出かけることが多くなってきました。

しかしながら、また第八波が押し寄せようとしています。五回目のワクチン接種も必要になってきています。さらに、インフルエンザが3年ぶりに流行しそうな気配があります。コロナとインフルエンザのダブルパンチです。

さらに、この秋から急激な諸物価の値上げが襲い掛かってきています。それも、食品・電気・電力等日常生活に欠かせないものが値上げしています。すでに、来年3月頃までの値上げが発表されています。コロナからの景気の回復、ウクライナ戦争による原油・穀物の値上げ、そして円安による輸入品の値上げ等々が要因に挙げられていますが、短期的には解消しそうにはありません。

誰が影響を被るのか、

① 一人親家庭

まずは、ひとり親家庭です。シングルマザーの方々も景気回復の中で、仕事も出てきていますが、まだまだ収入は安定していません。コロナ禍で苦しい生活の中での値上げです。

今後も大変な生活が続きそうです

② 年金生活の高齢者

新たに、生活困窮が懸念されるのが基礎年金だけで生活する高齢者家庭です。毎年、年金額は漸減しています。そして、高齢者健康保険で、2割負担が新設され、全体的に負担が増えています。少子高齢化の中で、戦後の団塊の世代が後期高齢者になってきています。現役世代の負担軽減というより負担増加の抑制のためにやむをえないことです。

そのような中での、諸物価の高騰です。これから高齢者でぎりぎりの生活をされている方々が生活困窮に陥ることが予測されます。

③ 外国人

円高の影響をまともに受けているのは出稼ぎの外国人です。2020年は一ドル106円、2021年109円ですが、2022年は140円台です。多くの人が母国の家族に送金しています。円安の影響で、現地通貨で従来と同額を送ろうとすれば円では余分に送金しなければなりません。彼らは円安の影響をもろに受けています。さらに生活を切り詰める外国人も増えています。

私たちフードバンクの仕事は増大‼



残念ですが、私たちの仕事はこれからさらに増えそうです。特に高齢者の方々の支援は新しい課題として出てきます。円高の影響で食品メーカーさんからの食品のご提供も減ってきている状況です。ですから皆様方のご支援が従来に増して必要です。よろしくお願い致します。

歳末に向けてご寄付のお願い

私たちは、無償で食品のご提供を受けて、無償で生活困窮者の方々に食品を配布しております、利益はありません。但し、地代・光熱費・車両の維持費、ガソリン代等々の運営費が必要です。ご支援していただく会員の会費に加え、各種の補助金を充てていますが、苦しい財政運営は続きます。

こうした最近の状況から、さらに新たな活動を展開する必要があります。

皆様のご寄付を以下の口座にお振込みをお願い申し上げます。



口座番号：さがみ信用金庫　本店（001）　普通　2115349
口座名義：（特非）　報徳食品支援センター
フリガナ：トクヒ）　ホウトクショクヒンシエンセンター

子供たちにプレゼントを‼

不景気のせいか、最近特にお菓子類の提供が少なくなっています。クリスマス・お正月には子供たちに**お菓子や飲み物**をあげたいと思っています。お金でのご寄付に加え、**日持ちがするお菓子や飲み物の現物**も12月15日（木）までにご寄付の程お願い申し上げます。皆様にサンタクロースになっていただきたくお願い申し上げます。





報徳食品支援センター　〒250-0212 小田原市西大友 136－1　℡070-1432-9559　houtoku.foodbank@gmail.com